

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
493 準用河川改修事業（前代川、永山川）

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	3	豊かな暮らしを支える住環境の整備
施策	2	河川・水路の整備
取組方針	1	準用河川及び普通河川の改修

事業種別	継続	
事業期間	平成21	平成31
事業実施の根拠法令	(永山川は平成29～38)	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	河川港湾課	角田 憲彦 (435-1090)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	土木費		
	項	河川費		
	目	準用河川改修事業費		
	大事項	準用河川改修事業		
事項	準用河川改修事業（補助・単独）			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）		事業内容			
	【前代川】 前代川が合流する和田川への放水路の新設及び河道改修を行い、吉礼地区の浸水被害を解消する。	【永山川】 永山川の河道断面確保のため河道改修及び永山川に合流する平尾川からのバイパスの新設を行い、西山東、東山東地区の浸水被害を解消する。	【前代川】 吉礼地区の浸水被害を解消するため、合流する和田川への放水路の新設及び河道改修を行う。事業の流れとしては、設計→測量→用地取得→工事→竣工	【永山川】 浸水被害を解消するため、永山川の河道断面の河道改修及び永山川に合流する平尾川からのバイパスの新設を行う。事業の流れとしては、設計→測量→用地取得→工事→竣工		
実施内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	【前代川】 用地購入 205㎡ 護岸改修 80m 地盤改良 80m	【前代川】 護岸改修 5m	【前代川】 用地購入 1,218㎡ 地盤改良 83m	【前代川】 用地購入 400㎡ 地盤改良 101m 護岸改修 205m 【永山川】 詳細設計 (護岸設計) 1式 測量業務 1式	【前代川】 地盤改良 87m 護岸改修 107m 【永山川】 詳細設計 (橋梁等) 1式 用地購入 1式	

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	38,612	122,426	224,058	88,366	191,389	262,619	192,642		462,949	
伸び率 (%)	-	-	480.3%	▲27.8%	▲14.6%	197.2%	0.7%	▲100.0%	140.3%	-
人件費	正規職員	24,503	23,459	24,503	19,033	19,868	29,458	29,458	29,458	29,458
	正規職員以外	0	0	0	0	0	404	404	404	404
	小計	24,503	23,459	24,503	19,033	19,868	29,862	29,862	29,862	29,862
国庫支出金	10,200	38,500	54,000	25,700	60,000	81,800	60,000		145,000	
県支出金				5,425						
市債	17,900	70,000	103,000	50,000	115,400	150,000	112,600		278,100	
その他										
一般財源 (税等)	10,512	13,926	15,553	7,241	15,989	30,819	20,042		39,849	
所要人数 (人)	正規職員	3.15	3.10	3.15	2.50	2.67	3.71	3.71	3.71	3.71
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.1	0.1	0.1	0.1
主な予算内訳	工事請負費113,000千円 委託料56,200千円 公有財産購入費13,500千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			目標値	実績値	達成度 (%)	目標値	実績値	達成度 (%)
活動指標	準用河川 (前代川) の改修延長 (累計)	m	90	48	53.3%	112	53	47.3%
			148	129	87.2%	290		
			395					
成果指標	準用河川 (前代川) の改修率	%	18	10	55.6%	22	11	50.0%
			34	26	76.5%	55		
			77					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>準用河川前代川は、大雨時には河道の流下能力不足、放流先の和田川の内水排除不足により度々浸水被害が発生しており前代川の早期改修は流域住民の悲願である。和田川への放水路の新設を行い前代川流域の大幅な浸水被害の解消を目指す。</p> <p>準用河川永山川は、永山川及び平尾川の流下能力不足、中上流部にある用水樋門による断面阻害により、緊急輸送路である県道と歌山橋本線も度々浸水しており、早急な浸水解消が必要である。永山川の河道改修及び平尾川のバイパス新設を行い、大幅な浸水被害の解消を目指す。</p>
見直し・改善内容	<p>前代川改修事業は、当初平成32年度の完成予定であったが、平成24年の豪雨で甚大な被害があり、その後流域住民から早期完成の要望があり、工期の短縮が出来るように見直した結果、平成31年度の完成を目指す。</p> <p>永山川改修事業は、本川である和田川の整備と進捗を調整する必要があり、工事着手までに設計業務及び用地買収等を先行し、早期の事業完了を目指す。</p>